

第118回:政変のインプリケーション

重慶市トップの解任に始まった中国の政治劇に世界中が注目している。新聞やテレビ報道はヘッドラインが重要である。曰く「重慶事変」、「重慶の乱」、「重慶で肅清始まる」、「ミニ毛沢東・薄熙来」といった見出しが紙上を賑わせている。権力闘争のなかで、薄熙来という出る杭が打たれて失脚し、竹のカーテンの彼方から事件の全貌が徐々に顔を覗かせ始めた。当初は単なる規律違反と汚職事件かと思われたが、最近では機密漏洩、殺人(しかも外国人)、国家反逆罪などの疑惑が浮上しつつあり前代未聞の政治スキャンダルに発展しそうな雲行きである。幸いなことに政変を機に中国の地政学リスクが高まり、中国国債が暴落するような事態になるとは考えにくいし、今秋の党人事にもさほど大きな変更はないだろう。水に落ちた犬を叩き続けると天に唾することになりかねないので、査問はまだまた続くとしても、穏やかな幕引きと、落とし所を早めに探しておくべきである。どうせ薄熙来が囹圄の人となるのは当確なので、彼に国家反逆罪という大仰な罪名を被せるべきか否かは政治判断次第である。

中国において政治局委員クラスが失脚した事例は、江沢民政権が始まって以降の23年で、これで3度目である。1995年に北京市党委書記の陳希同、2006年に上海市党委書記の陳良宇が失脚し、そして今回の重慶事変である。この3件の失脚事件には共通項がある。第一に3人とも北京・上海・重慶という直轄市のトップであった。第二に3人とも政治局委員ではあるが更に上席の政治局常務委員ではない。第三に3人とも党中央の命令を聞かなかったため汚職を主たる理由にして解任されている。第四は推測だが、薄熙来本人は前例に従って死刑は免れるだろう。

まず、3人の犯罪者はなぜ省ではなく直轄市から生まれたのか。それは省よりも直轄市の方がトップの権限が大きく、利権も巨大だからである。また重慶はともかく、北京・上海・天津のトップはこれまで天下を窺う勢いの超エリートが任命されており、自ら恃むところも大きかったのだろう。陳希同は鄧小平の信認が厚かったからこそ首都のポストに任命された人物であり、天安門事件では自ら手を汚して騒動を鎮圧したにも拘わらず、あろうことか洞ヶ峠を決め込んだ上海の江沢民に政権を攫われたことに我慢できなかったという。むかし陳希同との会見の通訳をしたことがあるが、大声でジョークを連発する豪快な人物であった。個人的には好感を持ったが、賄賂と愛人に囲まれた頹廢の日々が身の破滅を招くことになったらしい。

陳良宇は江沢民が上海市書記時代に抜擢した曾慶紅・黄菊・呉邦国たち上海閥の一員であり、江沢民の威を借るキツネとして、中央の指示に何度も逆らったことから最後は汚職の罪で逮捕された。重慶の薄熙来は庇護してくれる鄧小平や江沢民のような権力者が周囲にいなかったから自ら勝負に出て、暴力団追放と毛沢東時代への回帰を謳う「打黒唱紅」運動を強行し中央突破を図った。むかし毛沢東が党内で民主的に議論すると劉少奇や鄧小平たちに勝てないので、文化大革命という名前の大衆動員型クーデターを発動したのと同じ手法である。胡錦濤が彼を逮捕したのは、そこに反逆という危険な香りを感じたからだろう。

3人とも政治局委員だが、常務委員に届いていないのも共通している。常務委員を狙って陰謀を企てた

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。

から失脚したともいえるが、それだけでもなさそうだ。中国で逮捕される可能性のある高官は政治局委員までで、常務委員になればアンタッチャブルという説がある。真偽のほどは知らないが、ありそうな話ではある。最高指導者の失脚は国辱ものであり、そんな事例が多発すれば国際的信用を失うし、首脳同士も疑心暗鬼になって円満な人間関係の構築が困難になるだろう。本音はさておき、薄熙来事件で当局は「中国は法治国家であり、誰であれ法を犯せば厳刑に処する」と語るに落ちそうな声明を出した。

3人とも汚職を理由に失脚したが、政治家を叩けば誰だって埃は出るものだ。江沢民や胡錦濤を含めて、党国家指導者の子弟の数多くが海外留学しているが、この資金源を追及すると收拾がつかなくなるだろう。薄熙来は息子の薄瓜瓜の留学費用は奨学金だと記者会見で大見えを切ったが、奨学金を貰える秀才でないことは息子の顔に書いてある。「薄瓜瓜」でグーグルの画像検索を実行すれば、瓜瓜君がガールフレンドと遊び呆ける画像が多数登場する。むかし鄧小平と張り合った陳雲という長老がいたが、薄瓜瓜が陳雲の孫娘とチベット旅行している写真まで公開されている。陳・薄の両家は家族ぐるみの親しい関係にあり、これが太子党の太子党たる所以である。当局報道によると「薄熙来同志の妻・谷開来と息子は(殺された英国人の)ヘイウッド氏と良好な関係にあったが、経済的な利益を巡って問題が発生し、対立が激化した」とあり、どうやら両親だけでなく息子の薄瓜瓜も事件に連座してしまったようだ。新華社は、「経済的な利益云々」と重々しい表現を用いているが、早い話が「金銭トラブル」で殺し、殺されたのである。

陳希同は懲役16年、陳良宇は懲役18年の実刑をくらい、共に服役中である。薄熙来の行方がどうなるか不詳だが、ここまですれば実刑は間違いないだろうが、死刑にはならないと思われる。新中国の建国以来、数多くの権力闘争が繰り広げられ、劉少奇、彭德懷、賀龍たちのように医者の手当てが受けられず、実質殺されたような人物はいるが、政治局委員級で死刑を執行された人物はまだいない。死刑の判決を受けた四人組の江青と張春橋も、後に刑の執行を猶予され、更には減刑まで受けている。

いま薄熙来は河北省の北戴河で規律検査委員会の調査を受けているという。もし事実とすれば、この地が選ばれた理由は党委書記の張慶黎が胡錦濤の共青団時代の同僚で親友だからである。彼は軍長老の張万年上將の甥でもある。危険人物は地元から引き離し、安全な場所に隔離して査問するのが中国流だ。北戴河は要人の避暑地でもあり、機密を守り容疑者を保護する施設も多く、何かと便利なのである。(了)

文中の見解は全て筆者の個人的意見である。

平成24年4月13日

筆者プロフィール

杉野光男

東洋証券株式会社 主席エコノミスト

一橋大学商学部卒、三菱信託銀行(現三菱UFJ信託銀行)入社、上海華東師範大学へ留学

同行北京駐在員、上海駐在員事務所長、理事中国担当部長を経て、2007年より現職

著書 日本の常識は中国の非常識(時事通信社)、中国ビジネス笑劇場(光文社)等

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。

2/3



東洋証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第121号

日本証券業協会 加入

本社所在地 〒104-8678 東京都中央区八丁堀 4-7-1 TEL03-5117-1040

ご投資にあたっての注意事項

手数料等およびリスクについて

①株式の手数料等およびリスクについて

- 国内株式の売買取引には、約定代金に対して最大1.2075%（税込み）（約定代金が260,869円以下の場合、3,150円（税込み））の手数料をいただきます。国内株式を募集、売出し等により取得いただく場合には、購入対価のみをお支払いいただきます。

国内株式は、株価の変動により、元本の損失が生じるおそれがあります。

- 外国株式等の売買取引には、売買金額（現地における約定代金に現地委託手数料と税金等を買いの場合には加え、売りの場合には差し引いた額）に対して最大0.8400%（税込み）の国内取次ぎ手数料をいただきます。外国の金融商品市場等における現地手数料や税金等は、その時々々の市場状況、現地情勢等に応じて決定されますので、本書面上その金額等をあらかじめ記載することはできません。

外国株式は、株価の変動および為替相場の変動等により、元本の損失が生じるおそれがあります。

②債券の手数料等およびリスクについて

- 非上場債券を募集・売出し等により取得いただく場合は、購入対価のみをお支払いいただきます。

債券は、金利水準の変動等により価格が上下し、元本の損失を生じるおそれがあります。外国債券は、金利水準の変動等により価格が上下するほか、カントリーリスク及び為替相場の変動等により元本の損失が生じるおそれがあります。また、倒産等、発行会社の財務状態の悪化により元本の損失を生じるおそれがあります。

③投資信託の手数料等およびリスクについて

- 投資信託のお取引にあたっては、申込（一部の投資信託は換金）手数料をいただきます。投資信託の保有期間中に間接的に信託報酬をご負担いただきます。また、換金時に信託財産留保金を直接ご負担いただく場合があります。

投資信託は、個別の投資信託ごとに、ご負担いただく手数料等の費用やリスクの内容や性質が異なるため、本書面上その金額等をあらかじめ記載することはできません。

投資信託は、主に国内外の株式や公社債等の値動きのある証券を投資対象とするため、当該金融商品市場における取引価格の変動や為替の変動等により基準価格が変動し、元本の損失が生じるおそれがあります。

④株価指数先物・株価指数オプション取引の手数料等およびリスクについて

- 株価指数先物取引には、約定代金に対し最大0.0840%（税込み）の手数料をいただきます。また、所定の委託証拠金が必要となります。
- 株価指数オプション取引には、約定代金、または権利行使で発生する金額に対し最大4.20%（税込み）（約定代金が2,625円に満たない場合は、2,625円（税込み））の手数料をいただきます。また、所定の委託証拠金が必要となります。

株価指数先物・株価指数オプション取引は、対象とする株価指数の変動により、委託証拠金の額を上回る損失が生じるおそれがあります。

ご投資にあたっての留意点

取引や商品ごとに手数料等およびリスクが異なりますので、当該商品等の契約締結前交付書面、上場有価証券等書面、目論見書、等をよくお読みください。

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。